

資料4

鳥取県立図書館の目指す図書館像
(第3次改訂版)に基づく中間評価
について

鳥取県立図書館の目指す図書館像(第3次改訂版)の柱とキーワードに関する評価

(1) 4つの柱

【第1の柱】 仕事とくらしに役立つ図書館を実現します。		行動評価	A
目標	(1) 地域経済の活性化と地域の自立への貢献 ○ビジネス支援サービスの充実 ○県政への貢献	○働く気持ち応援サービスの充実 ○地域活性化への貢献	
令和6年度 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で夢を実現しました大賞を実施し、表彰式を開催した。 ・ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムを開催した。 ・「夢・実現スタートアップ創業勉強会」を開催した。 ・「としょかんビジネストーク」について、ホームページへ2件追加掲載した。 ・高校生ビジネスプラン作成講座」を開催した。(日本政策金融公庫との共催) ・関係課と連携し、県政の課題解決に資する関連展示を実施した。 		
目標	(2) 豊かなくらしへの貢献 ○医療・健康情報サービスに充実 ○法情報・困りごと支援・くらしの安心に関するサービスの充実		
令和6年度 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・館内標示を考えるワークショップ(認知症本人ミーティング)を開催し、わかりやすい館内標示を設置した。 ・関係機関との連携によるイベントで出前図書館や企画展示を実施した。 ・とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへ参加した。 ・行政書士無料相談会・司法書士無料相談会や労働セミナーを開催した。 		
目標	(3) 共生社会の実現に向けた読書バリアフリー等の推進 ○あらゆる利用者に対応したサービスの充実 (はとふるサービス、高齢者サービス、子育て応援サービス、人材養成のための情報提供、多文化サービスなど)		
令和6年度 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会を開催した。 ・はとふる図書館ツアー(視覚障がい者等を対象とする図書館ツアー)を開催した。 ・障がい者サービス用機器の整備・充実に取り組んだ。(デジター図書再生機1台、据置型拡大読書器1台、リーディングルーペ16個、リーディングトラッカー27個) ・高齢者を対象とした「デジタル機器を利用した情報収集講座」を開催した。 ・託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」を実施した。 		
成果と課題	<p>(成果)</p> <p><ビジネス支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回図書館で夢を実現しました大賞の実施で具体的な成功事例を3件集めることができ、図書館を活用した事例を漫画で紹介するチラシも3枚作製しHP等で周知できた。 ・ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムの開催により各メディアからも取材を受け、ビジネス支援サービスについて周知を図ることができた。 ・夢・実現スタートアップ創業勉強会の開催により、鳥取県よろず支援拠点及び米子市立図書館・倉吉市立図書館と連携して開催し、参加者へ創業のノウハウを学んでいただくことができた。また関係機関との連携が強化できた。各図書館からも情報提供を行い、図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。 ・高校生のためのビジネスプラン作成講座を3年連続で米子市立図書館会場を加えた2会場で開催し、西部地区の高校生にもビジネスアイデアの発想法や図書館の活用法について学べる機会を作ることができた。 <p><医療・健康情報サービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな館内表示を設置したことにより、多様な来館者にとって利用しやすい図書館となるための環境整備に取り組むことができた。 <p><法情報・困りごと支援・くらしの安心に関するサービスの充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加や連携展示などを通じて、関係機関との連携を進めることができた。 		

<p>成果と課題 (続き)</p>	<p><読書バリアフリーの推進・普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県読書バリアフリー計画については、現時点評価（計画中間年となる令和5年度までの評価）を実施し、取組の進捗状況と今後へ向けた課題等を把握することができた。 ・特別支援学校以外の学校へLD等専門員連絡会で当館サービスについて説明を実施する等、学校現場への広報に努めた。 ・は一とふるサービスや読書バリアフリーについて周知するため、県政テレビやラジオ、新聞等を通じて一般県民へ向けた周知啓発を実施した。 <p><高齢者サービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者対象のデジタル機器を利用した情報収集講座」を、学びなおしに取り組む方まで対象とし、当館以外の図書館で開催したことにより、日頃当館に足を運ぶ機会がない県民の方にもサービスを提供することができた。 <p><子育て応援サービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」を実施し、幼いお子さん連れの利用者の方にゆっくりと調べ物をしたり本を選んだりしていただくことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県読書バリアフリー計画は、令和7年度に計画の最終年を迎えるに当たり、当事者、関係団体等と意見交換しながら改訂作業を進めていく必要がある。 ・県内の障がい者サービスの実態調査の実施等を通じて、障がい者サービスの一層の周知及び市町村立図書館や関係機関との連携を強化し、ニーズを把握しながら県内全域の障がい者サービスの更なる充実を図る必要がある。 ・図書館の読書バリアフリーの取組や障がいに配慮した様々な資料や機器について、引き続き周知啓発に努める必要がある。 ・県内の各サービスの実態を把握し、サービスの一層の周知、及び市町村立図書館・関係機関等との連携によるサービスの充実を図る必要がある。
<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書バリアフリー計画」の改訂で目標としている「アクセシブルな書籍の大幅な拡充」、「障がいの有無、年齢に関係なく誰もが自分にあった書籍等にアクセスできるサービスの充実」、「すべての人が読書を楽しめる環境の普及・啓発」に取り組む。 ・市町村立図書館・関係機関等との連携を強化し、各サービスのさらなる充実を図り、県民が安心して暮らせるための情報を提供する。

<p>【第2の柱】 生涯を通じての人の成長・学びを支える図書館を実現します。</p>		<p>行動評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>(1) ふるさとキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館機能を活用したふるさとキャリア教育の支援 ○関係機関と連携したキャリア教育への支援 		
<p>令和6年度の主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校・特別支援学校の探究活動などに対し資料相談と資料の貸出により支援を行った。 ・「高校生ビジネスプラン作成講座」を開催し、経営やキャリアについて図書館資料を活用しながら考える機会を提供した。 ・「鳥取県認定グリーン商品」の巡回展示を実施し、関係機関と連携してキャリア教育への支援を行った。 ・「『とっとり県民の日』のパネル展示」の開催を県内図書館に呼びかけ、開催館へのパネルの搬送を行った。 ・とりデジの授業利用について、学校司書向け研修会で紹介した。 		
<p>目標</p>	<p>(2) 学校図書館への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館支援センターによる支援 ○「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及啓発 ○市町村立図書館が行う学校図書館支援のサポート ○学校図書館におけるICTを活用した教育の推進のための環境整備 		

令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育普及講座（小・中・高・特支対象）、学校図書館司書研修会（高・特支対象）を実施した。 ・学校司書のためのICTスキルアップ研修会を開催し、ICT操作スキルの習得や業務での活用推進を図った。 ・学校図書館関係職員、高等学校・特別支援学校生徒対象の研修会へ講師を派遣した。 ・高等学校と特別支援学校図書館への訪問相談を実施した。 ・各館の蔵書の充実に資することを目的とし、授業活用選定用見本図書、児童書の新刊見本図書の貸出を行った。
目標	<p>（3）子どもの読書活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの読書活動推進のための環境整備 ○中学生・高校生の読書活動推進 ○市町村立図書館・学校図書館と連携した支援
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館、幼稚園・認定こども園・保育所職員を対象とした児童サービス専門講座「未就学児と本をつなぐー豊かな未来のために」を開催した。 ・県内公共図書館の児童図書担当初任者を対象とした児童サービス実務研修を開催した。 ・「ドリームティーンズコーナー」において、10代青少年の問題意識や興味に沿った資料収集やコーナー展示を実施、ホームページや通信の発行等による情報発信を実施した。 ・「全国高等学校ビブリオバトル2024鳥取県大会」を開催した。 ・高等学校・特別支援学校の司書と協力して「高校生にすすめたい本」リストを作成、配布した。 ・市町村立図書館、学校図書館に読書バリアフリー啓発パネルの貸出を行い、サービスや資料の周知に務めた。 ・県教育センター主催の司書教諭研修会で、アクセシブルな書籍や読書を支援する道具（リーディングトラッカーなど）を紹介した。
目標	<p>（4）生涯学習への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習としての読書推進 ○学び直しの支援 ○生涯学習機関としての機能の整備・拡充 ○情報リテラシー向上の支援
令和6年度 の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる講演会を実施した。 ・生徒の卒業後の公共図書館利用へつなげるために、特別支援学校や高等学校に出向いて、生徒を対象とした「卒業後の公共図書館利用」、「県立図書館のサービス」「著作権」などについての図書館活用講座を行った。 ・学校図書館関係職員を対象とした講座で情報リテラシー向上やデジタルシティズンシップに関する内容を取り入れた。
目標	<p>（5）居場所としての活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サードプレイスとしての図書館サービス ○子どもの貧困問題に対する対応と子どもの居場所づくり
令和6年度 の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の役割として「居場所としての図書館」が求められていることを県教育センターが主催する司書教諭研修で周知した。 ・県内市町村立図書館と当館で組織する鳥取県公共図書館協議会として、県孤独・孤立対策課が運営する「とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」に一般団体として入会し、情報収集に努めた。
成果と課題	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童サービス専門講座」「児童サービス実務研修」を開催したことにより、子どもの読書に関わる人の理解が深まり、各種おはなし会や児童図書室での展示等、子どもの読書活動推進のための取組みに活かすことができた。 ・授業に関わる資料の提供、新刊見本図書等による選書支援など、資料面での支援を十分に行うことができた。 ・学校図書館関係職員のニーズや現代の社会テーマに沿った内容の研修を実施することで、学校図書館関係職員のスキルアップや新たな学びにつながっている。 ・訪問相談、学校図書館司書実務研修会の共同企画、運営などを通じて学校現場との連携を深めることができた。

成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別資料展及び郷土文化講演会の開催により、図書館資料や郷土人物について県民が理解を深める機会となった。 ・古文書の読解に取り組んだ成果は、とりデジのコンテンツの翻刻に活用した。 ・国際交流ライブラリー講演会では、市町立図書館等のサテライト会場の設置やオンライン視聴も可能とした。 ・開館当初より地元書店との共存を考え、地元書店からの図書購入を実施する等、長年にわたる取組が評価され、高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに県立図書館が行った展示等を県内の公共図書館等でも行ってもらうなど、県内全域に郷土情報の周知と活用を促進していく必要がある。 ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化する必要がある。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を幅広く収集・整理・保存し、郷土の歴史・文化の継承のための郷土資料の活用を推進する。 ・郷土資料の保存について災害等の対策を講じるとともに、郷土資料のデジタル化を推進する。 ・環日本海交流室を拠点として環日本海諸国との図書交換事業を継続し、環日本海諸国との交流の充実を図る。

【第4の柱】 知の拠点としての図書館を実現します。		行動評価	B
目標	<p>(1) 電子図書館構想の検討と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電子書籍サービスの導入 ○市町村立図書館等との連携・協働 ○Webサービスの強化 ○デジタルアーカイブシステムの充実 ○国、他機関等との連携 		
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーとしてのサービスや、遠隔地の利用者の利便性向上のためのサービス等として、電子書籍サービスの提供を行った。 ・鳥取県ライトハウス点字図書館と連携し、電子書籍サービスに関するホームページのアクセシビリティ改善に向け検討を行い、テキストデータによる資料リストを作成・公開した。 ・郷土資料のデジタル化を行った。 ・鳥取市立中央図書館、米子市立図書館、倉吉市立図書館と共催し、高齢の方等を対象にスマホ等のデジタル機器を活用した情報収集講座を実施した。 ・学校図書館司書を対象としたICTスキルアップ専門講座を開催した。 		
目標	<p>(2) 新たな利用者の開拓とサービスの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウィズコロナ時代の非接触、非来館型サービスの提供 ○アウトリーチサービスの推進 ○様々な手法を用いた情報収集のためのツールの提供 		
令和6年度取組	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービスと、とりデジを普及するため「鳥取県電子図書館普及キャラバン」(以下「電子図書館普及キャラバン」という)を実施した。 		
目標	<p>(3) 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員育成 ○市町村立図書館職員、読書活動推進関係者等への支援 		
令和6年度取組	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化を担う人材育成のため、県・市町村の図書館、文化財担当者対象の研修を実施した。 ・市町村立図書館、高等学校・特別支援学校等の図書館経営を支援するために訪問相談を行った。 ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、市町村立図書館職員のスキルアップを目的とした図書館業務専門講座(年4回)・新任職員のための図書館職員実務研修会を実施した。 		

<p>主な令和6年度（続きの）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育普及講座（小・中・高・特支対象）、学校図書館司書研修会（高・特支対象）を実施した。 ・市町村立図書館職員、学校図書館関係職員対象の研修会へ講師を派遣した。 ・学校司書のためのICTスキルアップ研修を行い、ICT操作スキルの習得や業務への活用を推進した。 ・「県立図書館の司書の人材育成、能力開発に向けた基本方針」を策定した。
<p>成果と課題</p>	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラバンの実施は、市町村立図書館・大学図書館職員と協働して運営を行った。 ・令和7年3月までのとりデジのアクセス件数は約147万件となり、年々アクセス数が伸びている。 ・研修は、参加者のニーズや社会的課題に対応し、先進的な事例や新しい取組、サービスが学べる機会を提供できており、参加者のスキルアップにつながっている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービスの提供において、県民の意見を伺いながらアクセス改善及び紀伊国屋書店への要望を行う必要がある。 ・資料のデジタル化を推進し、資料の適切な保存管理及び利活用等の実務を担う人材の育成が必要である。 ・電子図書館構想を進めるためには、デジタルでの広報を充実させる必要があり、その戦略の検討や、技術を持つ人材の育成やノウハウの蓄積が必要である。
<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化などによる図書館のDX化を進める。 ・非来館者を含めた全県民へのサービスの充実を図る。 ・令和7年度、市町村立図書館と当館とで組織する鳥取県公共図書館協議会において、電子書籍共同導入に関する勉強会を開催している。 ・県民ニーズの多様化や情報化社会にも対応するために、職員研修やノウハウの共有・情報提供を継続する。各図書館のニーズを把握し、より参加しやすく需要のある研修を目指す。

(2) 4つのキーワード

<p>1</p>	<p>ネットワーク ～全県で県立図書館のサービスを利用できる環境整備～</p>	<p>行動評価</p>	<p>B</p>
<p>令和6年度の主な取組</p>	<p>目標 (1) 市町村立図書館・学校図書館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館の経営を支援するため訪問相談を行った。 ・市町村立図書館・学校図書館の情報提供機能の支援のため資料相談を行った。 ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、市町村立図書館、学校図書館職員を対象とした職員研修を実施した。 ・市町村立図書館・学校図書館へ、全点購入している新刊児童図書、小・中学校の調べ学習用見本図書の提供による選書の支援を行った。 ・市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館、大学・高等専門学校図書館、県立病院・類縁機関図書室への当館資料の貸出を行った。 		
<p>令和6年度の主な取組</p>	<p>目標 (2) 物流システムの活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全県の図書館に2日以内に県立図書館の資料を届ける宅配便の運行により、県内各図書館・図書室の資料提供の支援を行った。 ・県内各図書館・図書室に対し、2週間に一度各館を巡回する搬送車によるリクエスト本の配送、貸出本の回収、資料の大量一括貸出等を行った。 ・図書館資料以外にも、市町村立図書館や学校図書館での展示に使用するパネルや物品の搬送を行った。 		
<p>令和6年度</p>	<p>目標 (3) 危機管理への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害等に対応するための県内図書館間の協力体制の構築や、その検討を行うことができなかった。 		

成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流システムの運行により、各図書館等の利用者に対する資料・情報の迅速な提供が可能となっている。 ・授業に関わる資料の提供、新刊見本図書等による選書支援など、学校図書館への資料面での支援を行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費や燃料代の上昇等により物流システムの経費が高騰している。 ・災害等に対応するため、県内図書館間の協力体制や情報共有の体制づくりが必要である。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・広く県民に県立図書館資料を活用していただくために、市町村立図書館・学校図書館との連携や物流システムの体制を堅持していく。 ・電子書籍の充実や、訪問相談時に本を届けたり、研修時に資料を手渡したりする日々の工夫などを通じて、物流システムのコスト削減にも取り組んでいく。

2 専門性 ～図書館が県民の課題解決を支援～	行動評価	A
目標	(1) 所蔵資料及びサービスの充実	
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス研修(国立国会図書館主催)、障害者サービス担当職員向け研修(日本図書館協会主催)、医学図書館員基礎研修講座(日本医学図書館協会主催)、デジタルアーキビスト資格取得講習(TRC-ADEAC株式会社)等を受講し、専門性の向上を図った。 ・館内レファレンス研修等を行い、職員のスキルアップを図った。 	
目標	(2) 専門機関との連携	
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県人権ひろば21人権ライブラリーや鳥取県男女共同未来創造センター情報ライブラリーとの資料の貸出や資料相談に関する相互協力を行った。 ・「起業・経営なんでも相談会」((一社)鳥取県中小企業診断士協会との共催)、「創業・融資相談会」(日本政策金融公庫鳥取支店との共催)、「知財・ビジネス共同相談会」(INPIT鳥取県知財総合支援窓口、鳥取県よろず支援拠点が協力)など、専門機関と連携したビジネス関係の相談会を定期的に開催した。 ・鳥取大学、公立鳥取環境大学と連携し、鳥取大学サイエンス・アカデミー、鳥取大学公開講座を計18回(受講者延べ536名)開催した。 ・健康政策課や道路企画課などの県庁各課や、鳥取警察署、鳥取県労働相談所みなくる、社会福祉法人鳥取こども学園里親家庭サポートセンターなどの専門機関と連携して館内展示を実施した。 	
目標	(3) 進化する情報化への対応	
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の購入を継続し、充実を図った。 ・所蔵資料のデジタル化を継続して起こった。 ・電子図書館普及キャラバンを実施した。 ・学校司書のためのICTスキルアップ研修を実施した。 	
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館普及キャラバンを大学やショッピングモールで実施し、来館者以外へPRを行うことができた。 ・ビジネス関係の相談会で助言を受け、起業したり事業改善をしたりした方もあり、図書館が資料や情報の提供の場所であると共に専門家に相談できる場としても定着している。 ・県庁各課や専門機関と連携して展示を企画したことによって、展示テーマの幅が広がったり、社会の流れに沿ったタイムリーな展示が実施できたりしている。 ・県外研修受講や館内での勉強会で学んだことが県民からの資料相談に生かされており、より充実した情報提供ができています。 	

今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍やデジタルアーカイブの更なる充実を図る。 ・専門機関と連携した展示を市町村立図書館や学校図書館へ展開していくことを検討する。 ・県外研修で学んだことを館内や県内図書館へ伝達講習を行い、職員のスキルアップにつなげる。 ・司書の専門性を高めるため計画的に研修受講を行い、人材育成を図る。
-------	---

3	発信力 ～図書館の活用促進を県民に発信～	行動評価	A
目標	(1) 県民に対する積極的なアプローチ		
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村立図書館、大学・高等専門学校図書館、鳥取県男女共同参画センター情報ライブラリー、鳥取県立人権ひろば21「ふらっと」人権ライブラリーと連携し図書館利用の促進を目的とした「図書館へ行こう！キャンペーン」を実施した。 ・日本海新聞のコラム「図書館出会いの広場」においてサービスや取組の紹介を行った。(県立図書館をはじめ県内図書館関係者による執筆により25回掲載) ・ガイナレ鳥取のホームゲーム、産業未来フェス、認知症啓発イベント等、様々な機会に出向き出前図書館を実施した。 		
目標	(2) 多様な図書館活用方法の提案・普及		
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市、倉吉市、米子市と共催し、スマートフォン、タブレットを利用した情報収集方法について学ぶ「デジタル機器を利用した情報収集講座」を実施した。 ・電子書籍の普及を目的に、大学や市役所、商業施設において電子図書館普及キャラバンを実施した。 ・館内標示を考えるワークショップを開催し、多様な来館者にとって分かりやすい館内標示を設置した。 ・「医療・健康情報調べ案内」の情報を更新し、新しい情報を提供した。 ・視覚障がい者を対象とした図書館ツアーを開催した。 ・生徒の卒業後の公共図書館の活用につなげることを目的に、特別支援学校や高等学校に協力いただき「図書館活用講座」・「図書館活用講演会」を開催した。 		
目標	(3) Webの特性を生かした情報発信		
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・InstagramをはじめとするSNSでの発信を積極的に行った。 ・電子書籍は新着資料や読み上げ対応資料リストをExcel・PDF・テキストの各種ファイルでアップした。 		
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagramでは日々の細かな出来事を発信し、好評を得ている(反応がある)。また、図書館未利用者に図書館を知っていただく機会にもなった。 ・「図書館出会いの広場」を読んで図書館へ来館したという方が当館でも他の執筆館でもおられた。 ・市町村立図書館と共同で情報収集講座を実施することで、県立図書館単独の開催では参加を望めない方へ情報活用法を伝えることができた。 		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な利用者に向けて有効な発信媒体や提供ファイル形式を検討していく。 ・マスコミ等を活用とした積極的な情報発信を継続する。 ・県内各図書館や関係機関との協働を積極的に行い、事業や広報の効果を高めていく。 ・あらゆる方々に図書館を利用していただけるよう、社会の潜在ニーズを把握し、図書館の利用方法を発信していく。 		

4 保存と公開 ～情報資料の保存と利活用に向けた取組～	行動評価	B
目標	(1) 適切かつ計画的な資料保存等の推進	
令和6年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を積極的に収集し・整理・保存し、利用者の利用に供した。 ・とりデジに公開されている画像を電子図書館普及キャラバンでのクイズに使用した。 ・郷土人物をテーマとした企画展示で、とりデジに収録されている郷土人物情報へのリンクを紹介した。 ・館内職員を対象にした「本の補修勉強会」を毎週に開催した。 ・当館及び県内市町村立図書館職員を対象に「本の修繕」をテーマにした図書館業務専門講座を開催した。 	
目標	(2) 書庫問題への対応	
令和6年度 の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保存スペース確保のための方向性の検討を開始した。 	
目標	(3) 災害対策	
令和6年度 の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ、防災・減災に資料を積極的に収集した。 ・地下書庫にある貴重な郷土資料を水害から守るため、資料を2階に移動する検討を始めた。これに伴い、優先度の高い資料の特定について検討を始めた。 	
目標	(4) 「とっとりデジタルコレクション」等によるデジタル化資料の利活用と県民参加	
令和6年度 の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的なデジタル化計画」に沿って、郷土資料のデジタル化を実施した。 ・郷土資料の企画展示で取り上げた人物について、とりデジの郷土人物データベースにアクセスできるようホームページで発信したところ、アクセス数の増加につながった。 ・デジタル化した資料の公開にあたり、人権等に配慮するため内容の確認を行った。 	
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内で「本の補修勉強会」を定期的で開催するようになり、本の修繕や保存に関する技術やノウハウが蓄積されつつある。 ・自費出版等書店では入手できない郷土資料を多く収集し、提供することができている。 ・とりデジを周知したことにより、閲覧者が増えている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存スペース確保に向けて除籍作業等の時間確保に努める必要がある。 ・資料を適切に管理・保存するために、今後の蔵書構築の方向性や計画的な除籍の計画を検討する必要がある。 	
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・本の修繕や補修、保存についての専門的な知識・技術を持つ職員を増やして行く。 ・書庫の狭隘化に対応するため、定期的に状況を確認し、計画的に除籍を実施する。 ・災害等で郷土資料が滅失・破損しないよう具体的な対策を行う。 ・郷土資料のデジタル化を推進し、コンテンツの充実と学校や地域での活用促進につなげる。 	